



《28名の盛会だった総会 報告》

日時：6月29日（土）午後3：00～
会場：「桜はなび」（金沢市本町 1-3-32）

6月29日（土曜日）今年の金沢龍馬会総会は金沢市本町の「桜はなび」にて開催です。

青春の血？湧きたぎる28名の男女会員が参加、大いに飲み語り楽しいひと時を過ごしました。

参加者は

山田/小屋/蛭子/宇賀/中田俊/佐藤/守山/大坪/紐野/富来/中城/寺元/松岡/朝日/周藤/北川/小幡/折戸/中田文/谷/池田/永崎/高島/新木/加藤/谷内/宇野/川端 計28名でした。

総会では吉田事務局長の挨拶のあと蛭子会長の司会で進行しました。

2018年度議案審議：「事業報告、決算報告、監査報告」⇒拍手で承認

2019年度議案審議：「事業計画案、予算案」⇒拍手で承認

2019年度新役員案も拍手で承認されました。この結果、2019年度は、蛭子政喜（えびす・まさよし）会長を中心に副会長事務局長を含む執行体制で船出し、決定された事業計画案に基づき運営していく事となりました。

最後に蛭子会長は「金沢龍馬会の新たな仲間達とこれからは会のあり方など検討し魅力ある金沢龍馬会の立て直しを図り会員の増加に努めたい」と力強い挨拶があり無事に総会が終了しました。

お待ちかねの講演は、シャンソン歌手で在金沢福井県人会代表の谷 伊津子氏の「龍馬とシャンソン」を熱く語られ聞く会員が多かったようです。

谷 伊津子さんは福井県三国町ご出身で在金沢福井県人会代表を長年務めておられます。

福井における龍馬の足跡を勉強され、ゆかりの地を写真付きで紹介いただきました。

短い講演時間の中で面白くユニークな視点からのお話しが有りシャンソン・日本歌謡を含め4曲の素晴らしい歌声を披露して頂きました。

参加者は贅沢にもホテルディナーショーの気分を味わい感動ひとしきり万雷の拍手でした。楽しい講演とほのぼのとした歌を聞いた満足感に浸り愉快的雰囲気最高でした！！

このあと懇親会に移り龍馬について大いに語り飲み楽しい懇親の輪が広がりました。

今回は復活組、新入会員から挨拶を受け、参加者同士の意見交換が活発になされました。

最後は金沢龍馬会のこれからの発展を祈って周藤さんの中締めとして連帯の意味を込めて三三七拍子で楽しい宴は無事に終了しました。次回は富山で開催される北陸三県大会となります。

「北陸三県龍馬会交流会」

報告 佐藤理事

日時：9月7日（土）14：30～

講演会：旧宮崎酒造（滑川市瀬羽町 1850）
（富山地方鉄道 中滑川駅 徒歩10分）

講師：森本琢磨氏

（高知市立龍馬の生まれたまち記念館学芸員）

エクスカーション：滑川まちめぐり

懇親会：

金沢龍馬会からは

蛭子/佐藤/中城/寺元/松岡/朝日/周藤/中田文/長崎/加藤/堀野/松下/中東(会友) 計12名が参加。

計40名が集まりました。



旧宮崎酒造は有形文化財として登録され、藩政期には北国街道の宿場町として賑わった場所にあります。二階建ての建物は重厚な作りで、内部は、

広い土間を抜けると上部は太い梁を何重にも組んだ「井楼組」と呼ばれる構造になっています。

会場には、母屋一階の土間中ほどに面した座敷が使用されました。最初に、富山龍馬会会長の挨拶の後、「龍馬の生まれたまち記念館」学芸員の森本琢磨様より講演をいただきました。

今年は、戊辰戦争が終結して150年目にあたり、「戊辰戦争と土佐」の題目で、同戦争を土佐の視点からわかりやすく解説されました。

講演の後、富山龍馬会会員で滑川ボランティアガイド高橋さんの案内で、旧北国街道沿いを散策し、懇親会会場の滑川市民交流プラザに到着しました。

懇親会は4階のレストランで盛大に開催され、富山龍馬会の皆様のおもてなしの心が伝わる一日となりました。

いよいよ来月は高知にて全国大会が開催されます。参加される皆様には、大会を大いに盛り上げていただきますようお願いいたします。

まるわかり「龍馬と志士たち」②

志士たちが活躍した長崎とは

～吉田松陰～

松陰は龍馬と面談したという記録はない。しかしその弟子達が龍馬に与えた影響は計り知れない。

松陰は、日本中を駆け巡ったが吉田家は兵法を司り、山鹿流兵学の師範であった。

しかし1840年に起きたアヘン戦争を知ってから山鹿流は既に時代に合わないという問題意識から西洋の戦力や兵法、時代に合った理論・実践を探求し、日本を如何にすべきかを追求した人生であった。畢竟、単なる思想家ではなく実践家でもあった。

文政13年(1830年)長州藩土杉家の次男として生を受け、5歳で吉田家の養子となる。

吉田家は、代々長州藩で山鹿素行が開祖である山鹿流師範であった。9歳で藩校明倫館兵学師範となり、11歳の時、藩主の御前で講義を行い、その出来栄えがあまりに優れているため、藩主から賞賛を得たことはあまりにも有名な伝説である。

山鹿流の本家は平戸藩(松浦家)配下で引き継がれていたため、21歳の嘉永3年(1850年)9月長崎に着き、平戸藩長崎屋敷で手続きを行い平戸に向かった。

山鹿流家元で兵法を学ぶと同時に、陽明学や、西洋の最新情報を仕入れた。帰りに再度長崎を訪れ、西洋砲術の高島秋帆の長男や唐通事等と交流し、出島を訪ねオランダ船に乗り込んでいる。

この時の体験が西洋事情を理解し海防に目覚め、憂国の精神を持つ人物に育った一因だと思われる。

その後、江戸で佐久間象山、安積良斎に学んだ。また友人となった肥後藩 宮部鼎蔵と共に幕末に隆盛した山鹿素行の末裔である山鹿素水に入門している。更に各地を訪れ各藩の有識者と交流した。

最も有名なのは嘉永5年(1852年)宮部鼎蔵らと東北旅行を行う事を計画したが藩からの手形が遅い為待ちきれず脱藩を決定した事である。この時は津軽海峡を通行する外国船を見学しようとした。江戸に戻った後藩より厳しい懲罰を食らった。

そして嘉永6年(1853年)プチャーチン率いるロシア船パルラダ号が長崎に寄港したと聞き、それに乗り込み海外渡航を試みようとした。

しかし松陰が長崎に着いたとき、ロシア軍艦は既に出港した後であった。彼の決意は変わらず、次年下田へ赴き金子重輔と共にペリーの船に乗り込み密航しようとして失敗した。

そして幕府に捕らわれ、国元蟄居となり野山獄に収容された。その後松陰は先達から引き継ぎ、自らが主宰する松下村塾を開く。

そこで幕末・明治に活躍する多くの人材を育成する。そこには龍馬に影響を与え且つ交流した久坂玄瑞、高杉晋作、伊藤博文等多くの志士がいた。

その後松陰は安政の大獄に連座し、江戸の伝馬町牢屋敷へ送られ斬首される。享年30歳(数え年)であった。

辞世の句は

「身は たとひ 武蔵の野辺に 朽ちぬとも
留め置かまし 大和魂」

写真：平戸城(長崎県平戸市提供)

参考資料：長崎新聞、Wikipedia



「続く」(記：吉田信夫)

☆新会員 111番 上田忠司さん
112番 榊田良一さん

【編集後記】

皆さま、総会も無事終了しました。心の中に常に“龍馬の志し”を持ち張り切ってまいりましょう。会報も第21号が完成、漸く皆さまにお届けすることが出来ました。

***** 事務局*****

金沢龍馬会

会長：蛭子政喜

事務局長：吉田信夫

080-5600-1113

jitianxinfu@hotmail.com

会報担当：中田俊郎 090-7806-2269

n-toshio@muji.biglobe.ne.jp

金沢龍馬会 公式ホームページ

<http://kanazawa-ryomakai.com/>

金沢龍馬会 facebook

<https://www.facebook.com/kanazawa.ryomakai?sk=wall&filter=2>

